

来たり憩え ルカによる福音書2章8節～20節

02:08その地方で羊飼いたちが野宿をしながら、夜通し羊の群れの番をしていた。02:09すると、主の天使が近づき、主の栄光が周りを照らしたので、彼らは非常に恐れた。02:10天使は言った。「恐れるな。わたしは、民全体に与えられる大きな喜びを告げる。02:11今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである。02:12あなたがたは、布にくるまって飼葉桶の中に寝ている乳飲み子を見つけるであろう。これがあなたがたへのしるしである。」02:13すると、突然、この天使に天の大軍が加わり、神を賛美して言った。02:14「いと高きところには栄光、神にあれ、地には平和、御心に適う人にあれ。」02:15天使たちが離れて天に去ったとき、羊飼いたちは、「さあ、ベツレヘムへ行こう。主が知らせてくださったその出来事を見ようではないか」と話し合った。02:16そして急いで行って、マリアとヨセフ、また飼葉桶に寝かせてある乳飲み子を探し当てた。02:17その光景を見て、羊飼いたちは、この幼子について天使が話してくれたことを人々に知らせた。02:18聞いた者は皆、羊飼いたちの話をも不思議に思った。02:19しかし、マリアはこれらの出来事をすべて心に納めて、思い巡らしていた。02:20羊飼いたちは、見聞きしたことがすべて天使の話したとおりだったので、神をあがめ、賛美しながら帰って行った。

昔、ユダヤという国の人たちは、救い主がやってくるのを何百年も待ち続けていました。救い主というのは、悲しいことや苦しいことをなくして、幸せをくださる方のことです。

悲しみや苦しみは、自分の力で乗り越えなければダメだよ、幸せは自分でつかむものだよと言う人もいましたが、ユダヤの人たちは、とてもひどいじめにあったので、心が弱ってしまって、もう自分の力ではどうしようもないほどの苦しい思いをしていたのです。

そんなユダヤの人たちをたすけるために、神様はみ言葉をくださいました。それが聖書です。その聖書には、きっと救い主が神様のところからやって来ると書いてありました。そこでユダヤの人たちは、来る日も来る日も、泣きながら、神様にお祈りしました。

なんとお祈りしたか知っていますか？それはさっき司会の方に読んでもらった聖書の中に書いてあります。分かりやすいように言葉を言い換えますから、良く聞いてくださいね。(大人の方は詩篇43の3節4節です。)

光り輝く天使を私たちに送ってください。

本当のことを教えてくれる天使を送ってください。

その天使たちが、救い主にお会いできるという山のある場所を教えてください。

そこにたどり着いたら、いつも救い主と一緒にいられるので

いつも喜んでいることができるでしょう。

そうしたら私は音楽にあわせて感謝の賛美歌を歌います。

さて、毎日泣きながら、こんなお祈りをしていたユダヤの人たちは救い主に会えたでしょうか。それから何百年もたった冬の夜、一人の赤ちゃんが生まれました。それが救い主、イエス様だったのです。最初にイエス様に会えたのは、羊飼いたちでした。そして、羊飼いたちには、ユダヤの人た

ちがお祈りしていたことと、そっくりそのままのことが、起こりました。

天使がやってきて、光であたりを照らしました。

天使たちは、救い主の居場所を教えてくださいました。それはベツレヘムという山の上にある町でした。

羊飼いたちは天使が教えてくれたとおりに歩いて行って、救い主イエス様にお会いできました。

イエス様は、罪の苦しみを代わりに負ってくださり、私たちの心を清め、その心で神様の声を聞けるようにしてくださいました。

羊飼いたちは神様に感謝の賛美歌を歌いながら帰っていきました。

この教会は、救い主にお会いする場所です。目には見えないけれども、目を閉じると心の目でイエス様にお会いすることができます。救い主イエス様は、あなたの罪の苦しみを全部代わりに負ってくださいます。あなたの心を清めてくださり、心の耳で、いつも一緒にいてくださる神様の声が聞こえるようにしてくださいます。

今日、神様が私たちに語りかけてくださるみ言葉はこれです。「来たり憩え。」神様は言われます。「さあ今、わたしはあなた方のところに来たのだ。だから、ここに来て、すべての心の苦しみを私に任せて、魂の安らぎを得なさい。人を恨んでいるなら、そのとげをわたしの体に突き刺し、魂の安らぎを得なさい。」

この心の平和を土台にするならば、恐れる物はありません。人のものを羨んだり欲しがったり奪ったりする必要もありません。この心の平和がもっと多くの人々に広がっていけば、やがてきっと社会の平和、世界の平和も実現するでしょう。